 福島	 	 専門学校	ξ	開講年度	平成29年度 (2		授業	 業科目	水処理工	 学		
科目基础			ļ			,						
<u>17 口坐。</u> 科目番号	WE IH TK	0013				科目区分	1	 専門 / コ [.]				
授業形態		講義・	1字羽			単位の種別と単位		サロ/ コ 学修単位:				
				N /D2左座門	 悪ハナ 、 、)	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		• 1- 1 1-	里位: 1			
開設学科		1	建設環境工学科(R2年度開講分まで) 対象学年 5									
	引設期 前期			\\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	. , 41	週時間数	間数 1					
教科書/教	材			公尾友矩編,ス	ナーム社							
旦当教員		髙荒 智	子									
到達目標	票											
		曜し,下水 「理解し, E物学的排	道の構成 これに関 水処理の	成を説明できる 関する基礎的な の原理を理解す	る 以計算ができる する							
レーブ!	ノツク					I		_	1			
				想的な到達レ		標準的な到達レベルの目安未到達し				ノベルの目安		
評価項目1					容を理解し、応用					镇目の内容を理解していた		
				きる。		0			<i>د</i> ۱.			
平価項目2												
平価項目:	3											
学科の発	到達目標項	目との	関係									
					:)							
		, (<i>)</i>	37H:	····×□'Ѭ (┗	• /							
教育方法	ム守		· ·	1.5-	P-1							
既要					プロセスの基礎的な							
受業の進ん	め方・方法	中間試	験として	で授業時間中に	250分間の試験を実	施する。後期試験で	として5	0分間の記	は験を実施す	る		
	, JIA				自習課題の成績20%					5		
上意主		宿題を	もとに自	自学自習を行う	うこと、自学自習の	確認方法:提出され	1た宿題	の内容で	評価する			
受業計画	画											
		週	授業区	 为容		à	调ごとの	り到達目標	<u> </u>			
		1週	総論	311					i			
		2週		± into 1	下水道の歴史, 下水道の種類			<u> </u>				
			基本									
	1stQ	3週		計画 2			下水排除方式					
		4週	管渠抗				計画汚ス	K量				
	1300	5週	管渠抗	施設 2			計画雨乙	k量				
		6週	管渠抗	施設 3		f	管渠の種	蝩類				
		7週	まと	め (中間試験)		理解度の確認						
		8週	下水		ş	継ぎ手手法						
前期		9週		<u> </u>	マンホール							
		10週		<u>。 </u>		伏せ越し						
		11週	+	<u> </u>			水質項目					
	2ndQ	12週	下水坑	<u> </u>		一次処理 二次処理(生物処理)						
	Znaq	13週	下水炉	処理 6					理)			
		14週	下水坑	処理 7		i	高度処理	里				
		15週	まと	<u></u>			汚泥処理	 里			-	
		16週										
	_ 		→ → H H H H H H H H H H H H H	内突 レ型法								
	コナルワイ		ルチ首	内容と到達						7015±1	1227hr / C	
} 類		分野		学習内容	学習内容の到達目	_				到達レベル	授業週	
					環境問題の歴史を理解している。 地球温暖化、オゾン層の破壊、酸性雨を理解している。				4			
専門的能力								o	4			
					熱帯林の減少、砂漠化・土壌劣化、野生性生物の種の減少、海洋			減少、海洋	4			
					汚染を理解している。 化学物質の管理、有害物質の越境問題を理解している。				1			
								0	4			
					開発途上国の環境問題を理解している。			4				
		建設系分		物質循環を理解し 地球資源問題を理解 環境容量を説明で		2解している。			4			
									4			
	V Balling								4			
	カ 分野別の 門工学		系分野	理培		^{R児} 谷重で訪りてさる。 関境と人の健康との関わりを説明できる。				4		
	11777			現場と人の健康との情		D関わりを説明できる。 D歴史とその内容(環境要因と疾病の関係)につ			4			
				いて、説明できる。					4			
				l t	水の物性、水の循環を説明できる。				4			
				1	水質指標を説明できる。			4				
								4				
					水質汚濁の現状を説明できる。 水質汚濁物の発生源と移動過程を説明でき、原単位、発生負荷を 今めた計算ができる。			~# <i>+</i>	<u> </u>			
								4	Ī			
					今めた計質ができ	ストルショルでは、こので	1001	沙十四、		4		
					含めた計算ができ 水域生態系と水質	3 .				4		

水質汚濁の防止対策・水質管理計画(施策、法規等)を説明できる	4
。 水道の役割、種類を説明できる。	4
水道計画(基本計画、給水量、水質、水圧等)を理解でき、これに 関する計算ができる。	4
水道施設(取水・導水・浄水・送水・配水・給水等)を理解している。	4
 浄水の単位操作(凝集・沈澱凝集等)を理解している。	4
――――――――――――――――――――――――――――――――――――	4
高度処理を理解している。	4
下水道の役割と現状、汚水処理の種類について、説明できる。	4
下水道の基本計画と施設計画、下水道の構成を説明でき、これに 関する計算ができる。	4
生物学的排水処理の基礎(好気的処理)を説明できる。	4
下水処理施設の設計を理解き、かつ計算できる。	4
高度処理を理解している。	4
汚泥処理・処分について、説明できる。	4
大気汚染の現状と発生源を理解している。	4
大気汚染の現状と発生源を説明できる。	4
大気汚染による人体・動植物への影響を理解している。	4
大気汚染と気象を理解している。	4
大気汚染物質の濃度予測を理解している。	4
大気汚染物質の除去方法を理解している。	4
大気汚染の防止対策(施策、法規等)を理解している。	4
悪臭を理解している。	4
音の基礎(音波、音圧、波長など)を説明できる。	4
音の尺度と騒音の評価を説明できる。	4
騒音の発生源と現状について、説明できる。	4
騒音による人体への影響を理解している。	4
騒音の伝搬と予測を説明でき、計算できる。 騒音の測定方法と計算方法を理解し、測定値から騒音評価ができ	4
る。	
施策、法規などによる騒音の防止対策を理解している。	4
廃棄物の発生源と現状について、説明できる。	4
廃棄物の収集・処理・処分について、説明できる。	4
廃棄物の減量化・再資源化について、説明できる。 	4
廃棄物対策(施策、法規等)を説明できる。 環境影響評価の目的を説明できる。	4
^{現現影} 音評価の日的を説明できる。 環境影響評価の現状(事例など)を説明できる。	4
環境影響指標を説明できる。 環境影響指標を説明できる。	4
リスクアセスメントを説明できる。	4
ライフサイクルアセスメントを説明できる。	4
溶解度について理解している。	4
化学平衡について理解している。	4
反応速度について理解している。	4
反応速度を理解し、計算ができる。	4
熱力学を理解し、計算ができる。	4
生態系の構造と機能を説明できる。	4
生物多様性の現状と危機について、説明できる。	4
生態系の保全手法を説明できる。	4
生態系や生物多様性を守るための施策を説明できる。	4
生命資源と資源の獲得を理解している。	4
微生物の定義(分類、構造、機能等)を理解している。	4
物質循環と微生物の関係を説明できる。	4
エネルギー獲得機構を理解している。	4
増殖速度、収率を理解している。	4
酵素反応速度を理解している。	4
自由エネルギーを理解している。	4
土壌汚染の現状を説明できる。	4
浄化と修復方法を理解している。	4
Little M. Liferman	4
土壌汚染対策理解している。	1
土壌汚染対策埋解している。 環境倫理を説明できる。	4
	4 4

		廃棄物を理解している。								
			I -	環境と森林の関係を理解している。						
			Ā	森林生態系と自然環境保全を理解している。						
評価割合										
	試験	1	 果題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他		合計	
総合評価割合	80	2	20	0	0	0	0		100	
基礎的能力	80		20	0	0	0	0		100	
専門的能力	0)	0	0	0	0		0	
分野横断的能力	0)	0	0	0 0			0	